

---

## 1 . 身体障害者調査

### 問3 暮らしている場所 \*詳細は17頁

暮らしている場所は、「自宅」が88.5%を占め、「福祉施設」は5.6%、「病院(入院)」は3.3%である。

### 問4 同居者 \*詳細は18頁

一緒に暮らしている人は、「配偶者」が56.0%と最も多く、次いで「息子、娘」が35.3%で続いている。なお、「一人暮らし」は13.6%である。

### 問7 主な障害の種類(身体障害者手帳の1番目に記載されている障害)

\*詳細は19頁

主な障害の種類は、「肢体不自由」が47.5%と最も多く、次いで「内部障害」(27.3%)、「視覚障害」(7.8%)、「聴覚障害」(7.1%)、「音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害」(2.3%)、「平衡機能障害」(1.3%)と続いている。

### 問12 日常生活動作における介助・援助の必要性 \*詳細は22頁

食事の際に「全部介助・援助が必要」な人は4.4%、「一部介助・援助が必要」な人は8.4%である。

トイレの際に「全部介助・援助が必要」な人は9.9%、「一部介助・援助が必要」な人は5.2%である。

入浴の際に「全部介助・援助が必要」な人は15.0%、「一部介助・援助が必要」な人は10.7%である。

衣服の着脱の際に「全部介助・援助が必要」な人は9.9%、「一部介助・援助が必要」な人は10.1%である。

家の中の移動の際に「全部介助・援助が必要」な人は8.9%、「一部介助・援助が必要」な人は6.8%である。

家事の際に「全部介助・援助が必要」な人は24.1%、「一部介助・援助が必要」な人は13.6%である。

外出の際に「全部介助・援助が必要」な人は23.4%、「一部介助・援助が必要」な人は15.2%である。

### 問14 介助・援助者が不在のときに希望する対応(複数回答) \*詳細は25頁

ふだん主に援助・介助をしている人が、病気などで一時的に介護ができなくなった場合には、30.5%が「介護などを行うホームヘルプサービスを利用したい」と考えている。

---

問 15 日中の過ごし方 \*詳細は 26 頁

日中の過ごし方をみると、20代から40代では「働いている（授産施設・福祉作業所なども含む）」人が約半数を占め最も多くなっている。一方、「自宅にすることが多い」と回答した人の割合は、概ね年齢があがるにしたがって高くなり、70代では約7割（69.8%）と特に高くなっているが、80歳以上では「自宅にすることが多い」が56.8%と減り、その分「病院・施設などで看護・介護を受けている」割合が23.4%と高くなっている。

付問 15-6 働くために大切な環境整備（複数回答） \*詳細は 29 頁

障害者が働くために大切な環境整備としては、「健康状態にあわせた働き方ができること」をあげる人が43.0%と最も多く、次いで「自分の家の近くに働く場があること」（38.8%）、「障害のある人に適した仕事が開発されること」（34.5%）と続いている。

問 19 外出の際に困っていること（複数回答） \*詳細は 30 頁

外出の際に困っていることを障害の種類別にみると、それぞれの障害で30%以上の人があげている項目は、視覚障害では「歩道が狭く、道路に段差が多い」（49.2%）と「道路に放置自転車などの障害物が多く歩きにくい」（42.9%）、聴覚・言語障害では「他人との会話が難しい」（36.8%）、肢体不自由では「歩道が狭く、道路に段差が多い」（36.5%）と「建物などに階段が多く、利用しにくい」（32.2%）となっている。

問 21 余暇活動の現状（複数回答） \*詳細は 32 頁

対象者が最近、最もよくした活動は「買い物」で、36.2%の人があげている。次いで「旅行」（24.8%）、「趣味などのサークル活動」（16.1%）と続いているが、3人に1人は「特に何もしていない」（33.4%）状況である。

問 22 余暇活動の希望（複数回答） \*詳細は 32 頁

今後、したいと思う活動については、「旅行」をあげる人が43.4%と最も多く、次いで「趣味などのサークル活動」（26.8%）、「買い物」（24.1%）と続いている。「買い物」以外は、いずれの活動も、最近活動した人よりも、今後したいと思っている人のほうが多くなっている。

問 27 悩み事や心配事の相談先（複数回答） \*詳細は 35 頁

悩み事や心配事の相談先（家族や親せき以外）は、「友人・知人」が24.6%と最も多く、次いで「市役所の福祉相談窓口」（20.6%）、「病院・診療所」（20.2%）と続いている。年代別にみると、「市役所の福祉相談窓口」をあげる人の割合は年代があがるほど高くなり、65歳以上では相談先の1番目にあげられている。

---

問 28 福祉サービスに関する情報の入手先（複数回答） \*詳細は 36 頁

福祉サービスなどの情報は「市の広報紙（広報テープを含む）」から得ている人が 66.1%と特に多い。

問 38 差別や人権侵害を感じた経験の有無 \*詳細は 42 頁

障害があることで差別や人権侵害を受けていると感じることがあるかを尋ねたところ、56.6%の人は「ほとんど感じることはない」と回答しているものの、「たまに感じる」（19.4%）と「いつも感じる」（4.4%）をあわせると2割以上の人は障害を理由とした何らかの差別や人権侵害を感じていることがうかがえる。

問 39 望まれる障害者施策（複数回答） \*詳細は 50 頁

今後、望まれる障害者施策としては、「障害者や高齢者にやさしい福祉のまちづくりの推進」をあげる人が 53.2%と最も多く、次いで「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（35.0%）、「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実させること」（33.9%）と続いている。

問 41 西東京市への居住継続意向 \*詳細は 51 頁

今後も西東京市に住み続けたいかを尋ねたところ、76.1%が「住み続けたいと思う」と回答しており、「住み続けたいと思わない」は 2.8%にとどまっている。

付問 41-1 西東京市への居住継続理由 \*詳細は 52 頁

今後も西東京市に住み続けたいと思う理由は、「現在の住所が西東京市にあるから」が 57.1%と最も多く、次いで「交通の便がよいから」（31.9%）、「親や近親者が近くに住んでいるから」（31.2%）、「自然が多く残っているから」（25.9%）と続いている。

---

## 2 . 知的障害者調査

### 問3 暮らしている場所 \*詳細は53頁

暮らしている場所は、「自宅」が87.3%を占め、「福祉施設」は8.2%、「病院(入院)」は2.3%である。

### 問4 同居者(複数回答) \*詳細は54頁

一緒に暮らしている人は、「父、母」が82.5%と最も多く、次いで「兄弟、姉妹」(45.8%)、「施設や寮の職員や仲間」(9.6%)と続いている。

### 問9 介助・援助者が不在のときに希望する対応(複数回答) \*詳細は59頁

ふだん主に援助・介助をしている人が、病気などで一時的に介護ができなくなった場合には、「一緒に住んでいるほかの家族に頼みたい」と考えている人が33.0%と最も多く、次いで「施設への短期入所(ショートステイ)を利用したい」(29.8%)、「ホームヘルプサービスを利用したい」(25.9%)と続いている。

### 問11 日中の過ごし方 \*詳細は60頁

日中の過ごし方をみると、20代、30代では「働いている(授産施設・福祉作業所なども含む)」人が60%以上となっている。

### 問12 働くために大切な環境整備(複数回答) \*詳細は65頁

障害者が働くために大切な環境整備としては、「障害のある人に適した仕事があること」をあげる人が65.0%と最も多く、次いで「家の近くに働く場があること」(64.4%)、「事業主等が、障害者の雇用について十分理解があること」(55.6%)、「働く場所をみつけてくれたり、相談できる場所があること」(54.0%)と続いている。

### 問15 外出の際に困っていること(複数回答) \*詳細は66頁

外出の際に困っていることとしては、「まわりの人と話すのがむずかしい」をあげる人が36.2%と最も多く、次いで「まわりの目が気になる」(18.9%)、「歩道が狭く、道路にでこぼこが多い」(18.6%)と続いている。

### 問16 余暇活動の現状(複数回答) \*詳細は67頁

対象者が最近、最もよくした活動は「買い物」で、48.3%の人があげている。次いで「旅行」(34.2%)、「スポーツやレクリエーション」(31.9%)と続いているが、約2割の人は「特に何もしていない」(20.1%)状況である。

---

問 17 余暇活動の希望（複数回答） \*詳細は 67 頁

今後、したいと思う活動については、「旅行」をあげる人が 60.5%と最も多く、次いで「スポーツやレクリエーション」(47.2%)、「買い物」(42.7%)と続いている。「買い物」と「障害者団体の活動」以外は、いずれの活動も、最近活動した人よりも、今後したいと思っている人のほうが多くなっている。

問 21 悩み事や心配事の相談先（複数回答） \*詳細は 70 頁

悩み事や心配事の相談先（家族や親せき以外）は、「友だちや知り合い」が 27.1%と最も多く、次いで「福祉施設や作業所の職員」と「学校の先生や職場の仲間」がそれぞれ 20.9%で続いている。年代別にみると、18 歳未満では「学校の先生や職場の仲間」(49.1%)と「友だちや知り合い」をあげる人の割合が特に高く、18～39 歳では「福祉施設や作業所の職員」(29.1%)と「市役所の福祉相談窓口」(25.3%)が比較的多くあげられている。一方、18～39 歳では「だれかに相談することはあまりない」が 27.2%、「相談できるところはない」が 8.2%、40～64 歳では「だれかに相談することはあまりない」が 22.1%、「相談できるところはない」が 7.4%となっており、18 歳以上では、悩みごとや心配ごとを相談しない、あるいは相談できない人が 3 割以上いる状況がうかがえる。

問 22 福祉サービスに関する情報の入手先（複数回答） \*詳細は 71 頁

福祉サービスなどの情報は「市の広報紙」から得ている人が 54.5%と特に多い。

問 27 差別や人権侵害を感じた経験の有無 \*詳細は 74 頁

障害があることで差別や人権侵害を受けたことがあるかと尋ねたところ、27.7%の人は「ほとんど感じることはない」と回答しているものの、「たまに感じる」(33.9%)と「いつも感じる」(13.0%)をあわせると 46.9%の人は障害を理由とした何らかの差別や人権侵害を感じていることがうかがえる。

問 30 望まれる障害者施策（複数回答） \*詳細は 79 頁

今後、望まれる障害者施策としては、「障害のある人が仕事につけるように手助けすること」をあげる人が 65.5%と最も多く、次いで「障害者や高齢者のやさしい福祉のまちづくりを進めること」(60.5%)、「障害のある子どもたちの可能性を大きく伸ばす教育を進めること」(57.6%)と続いている。年齢別にみると、18 歳未満では「障害のある子どもたちの可能性を大きく伸ばす教育を進めること」(82.7%)と「障害のある人が仕事につけるように手助けすること」(81.8%)をあげる人が特に多くなっている。

---

問 31 西東京市への居住継続意向 \*詳細は 80 頁

今後も西東京市に住み続けたいかを尋ねたところ、65.3%が「住み続けたいと思う」と回答しており、「住み続けたいと思わない」は 3.4%にとどまっている。

付問 31-1 西東京市への居住継続理由 \*詳細は 80 頁

今後も西東京市に住み続けたいと思う理由は、「現在の住所が西東京市にあるから」が 65.8%と最も多く、次いで「親や親せきなど親しい人が近くに住んでいるから」( 64.9% )、「交通の便がよいから」( 29.9% )と続いている。

---

### 3 . 精神障害者調査

#### 問3 暮らしている場所 \*詳細は81頁

暮らしている場所は、「自宅」が88.4%を占め、「病院(入院)」は7.2%、「福祉施設」は4.3%である。

#### 問4 同居者(複数回答) \*詳細は82頁

一緒に暮らしている人は、「父、母」が71.0%と最も多く、次いで「兄弟、姉妹」が29.0%で続いている。なお、「一人暮らし」は15.9%である。

#### 問6 日常生活動作における介助・援助の必要性 \*詳細は84頁

日常生活における「部屋の整理・整頓」「衣類の洗濯」「日用品などの買い物」「食事のしたく」「服薬」「金銭の管理」の6つの動作のうち、最も介助・援助を必要とするのは、「食事のしたく」で、全体の23.2%の人が「全部介助・援助が必要」と回答している。ただし、食事における介助・援助の必要性が特に高いのは男性で、41.2%が「食事のしたく」において何らかの介助・援助を必要としている状況がうかがえる。

#### 問10 働くために大切な環境整備(複数回答) \*詳細は87頁

障害者が働くために大切な環境整備としては、「自分の家の近くに働く場があること」をあげる人が55.1%と最も多く、次いで「健康状態にあわせた働き方ができること」(53.6%)、「障害のある人に適した仕事が開発されること」(42.0%)、「事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること」(39.1%)と続いている。

#### 問12 外出の際に困っていること(複数回答) \*詳細は88頁

外出の際に困ることは、30.4%が「特にない」と回答している。困ることとしては「他人の視線が気になる」が29.0%と最も多くあげられ、次いで「他人との会話が難しい」(26.1%)、「障害のある人に対する一般の人の理解が少ない」(26.1%)と続いている。

#### 問13 余暇活動の現状(複数回答) \*詳細は89頁

対象者が最近、最もよくした活動は「買い物」で、58.0%の人があげている。次いで「旅行」(31.9%)、「スポーツやレクリエーション」(29.0%)と続いている。

---

問 14 余暇活動の希望（複数回答） \*詳細は 89 頁

今後、したいと思う活動については、「旅行」をあげる人が 43.5%と最も多く、次いで「買い物」(37.7%)、「スポーツやレクリエーション」(36.2%)と続いている。「趣味などのサークル活動は、実際に行っている人が 8 人(11.6%)だが、今後したいと考えている人は 23 人(33.3%)を多くっており、現状に比べより高い活動意向を示している。

問 15 悩み事や心配事の相談先（複数回答） \*詳細は 92 頁

悩み事や心配事の相談先（家族や親せき以外）は、「福祉施設や作業所の職員」が 49.3%と約半数を占めている。

問 18 在宅で利用を希望する福祉サービス等（複数回答） \*詳細は 94 頁

在宅で受けることを希望するサービスとしては、「食事の配達」をあげる人が 21.7%と最も多く、次いで「掃除や洗濯、調理、買い物等の家事援助」(20.3%)、「生活の指導などのための看護婦や保健婦の定期的な訪問」(17.4%)、「総合的な相談窓口の設置」(17.4%)と続いている。ただし、「特に福祉サービスを受けることを希望しない」との回答も 21.7%みられる。

問 29 差別や人権侵害を感じた経験の有無 \*詳細は 95 頁

障害があることで差別や人権侵害を受けたことがあるかと尋ねたところ、「たまに感じる」が 34.8%、「いつも感じる」が 23.2%となっており、あわせると 58.0%の人は障害を理由とした何らかの差別や人権侵害を感じていることがうかがえる。

問 30 望まれる障害者施策（複数回答） \*詳細は 98 頁

今後、望まれる障害者施策としては、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図る」をあげる人が 47.8%と最も多く、次いで「障害の発生の予防とともに早期発見・早期治療を図る」(43.5%)、「障害のある人とない人の交流を推進し、相互理解を深める」(40.6%)と続いている。

問 31 西東京市への居住継続意向 \*詳細は 99 頁

今後も西東京市に住み続けたいかを尋ねたところ、62.3%が「住み続けたいと思う」と回答しており、「住み続けたいと思わない」は 10.1%となっている。

付問 31-1 西東京市への居住継続理由 \*詳細 100 頁

今後も西東京市に住み続けたいと思う理由は、「親や近親者が近くに住んでいるから」が 55.8%と最も多く、次いで「現在の住所が西東京市にあるから」が 48.8%で続いている。

---

## 4 . 難病者調査

### 問3 暮らしている場所 \*詳細は101頁

暮らしている場所は、「自宅」が95.2%を占め、「病院(入院)」は2.0%、「福祉施設」は0.8%である。

### 問4 同居者(複数回答) \*詳細は102頁

一緒に暮らしている人は、「配偶者」が69.0%と最も多く、次いで「息子、娘」が42.7%で続いている。なお、「一人暮らし」は9.0%である。

### 問7 病気の種類(複数回答) \*詳細は103頁

病気の種類は、「慢性肝炎」が34.7%と最も多く、次いで「パーキンソン病」(7.8%)、「肝硬変・ヘパトーム」(7.7%)、「潰瘍性大腸炎」(6.6%)と続いている。

### 問12 日常生活動作における介助・援助の必要性 \*詳細は104頁

日常生活の基本的な動作である「食事」「トイレ」「入浴」「衣服の着脱」「家の中の移動」については、いずれも80%以上が「一人でできる」と回答している。

### 問14 介助・援助者が不在のときに希望する対応(複数回答) \*詳細は105頁

ふだん主に援助・介助をしている人が、病気などで一時的に介護ができなくなった場合には、27.8%が「介護などを行うホームヘルプサービスを利用したい」と考えている。

### 問15 日中の過ごし方 \*詳細は106頁

日中の過ごし方をみると、「18~39歳」では「働いている(授産施設・福祉作業所なども含む)」人が58.8%を占めている。また、「65歳以上」では「自宅にすることが多い」人が75.9%にのぼっている。

### 付問16 働くために大切な環境整備(複数回答) \*詳細は107頁

難病者が働くために大切な環境整備としては、「健康状態にあわせた働き方ができること」をあげる人が61.7%と最も多く、次いで「自分の家の近くに働く場があること」(46.9%)、「事業主や職場の人たちが、難病者の雇用について十分理解していること」(34.5%)と続いている。

---

問 27 悩み事や心配事の相談先（複数回答） \*詳細は 110 頁

悩み事や心配事の相談先（家族や親せき以外）は、「友人・知人」が 33.6%と最も多く、次いで「病院・診療所」（27.8%）、「市役所の福祉相談窓口」（11.0%）と続いている。

問 28 福祉サービスに関する情報の入手先（複数回答） \*詳細は 111 頁

福祉サービスなどの情報は「市の広報紙」から得ている人が 73.7%と特に多い。

問 35 差別や人権侵害を感じた経験の有無 \*詳細は 113 頁

疾病を持っていることで差別や人権侵害を受けたことがあるかと尋ねたところ、66.4%の人は「ほとんど感じることはない」と回答しているものの、「たまに感じる」（13.8%）と「いつも感じる」（0.8%）をあわせると 14.7%の人は疾病を理由とした何らかの差別や人権侵害を感じていることがうかがえる。

問 36 望まれる難病者施策（複数回答） \*詳細は 118 頁

今後、望まれる難病者施策としては、「難病者や高齢者にやさしい福祉のまちづくりの推進」をあげる人が 46.3%と最も多く、次いで「難病者の働く場の確保や就労の定着化」（32.7%）、「在宅生活支援サービスの充実」（27.3%）と続いている。

問 38 西東京市への居住継続意向 \*詳細は 119 頁

今後も西東京市に住み続けたいかを尋ねたところ、67.4%が「住み続けたいと思う」と回答しており、「住み続けたいと思わない」は 4.5%にとどまっている。

付問 38-1 西東京市への居住継続理由 \*詳細は 120 頁

今後も西東京市に住み続けたいと思う理由は、「現在の住所が西東京市にあるから」が 52.1%と最も多く、次いで「交通の便がよいから」（41.5%）、「自然が多く残っているから」（33.6%）、「親や近親者が近くに住んでいるから」（24.5%）と続いている。